

**災害時に地図製品などを供給**  
ゼンリン スムーズな災害対応を支援

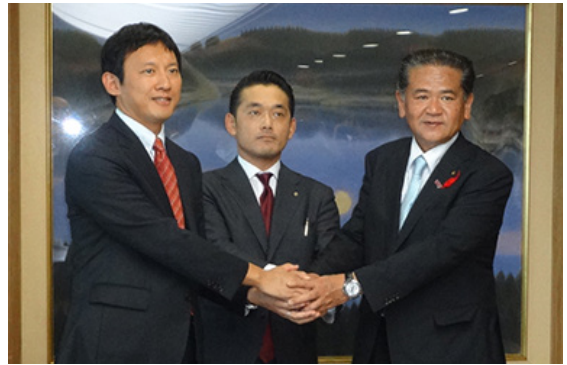


▲調印後に握手を交わす檜垣晋一郎部長(左)と中村博生市長

10月12日、ゼンリンの檜垣晋一郎九州第二エリア統括部長ら5人が市役所鏡支所を訪れ、市とゼンリンの間で「災害時における地図製品等の供給等に関する協定書」の調印を行いました。

今回、災害時におけるゼンリン住宅地図冊子を計15冊(市域別3冊×5部)、八代市包括広域地図を5部、インターネットによる地図情報の無償供給について協定を締結。本協定により本市は、ゼンリンから事前に地図を提出してもらうことで、災害が発生した際には、直ちに行動に移すことができるとなります。また、事前に住宅地図の複製利用承諾を行うことで、スムーズな災害対応を行えるようになります。

**コールセンターが八代市に新設**  
TonTon 立地協定調印式



▲調印後に固い握手を交わす今川博貴代表取締役社長(中央)ら

10月3日、東京に本社を置く「TonTon」の今川博貴代表取締役社長が県庁を訪れ、県の立ち会いのもとで本市と立地協定を締結し、調印を行いました。

TonTonは不動産・飲食事業を展開する会社ですが、今回「法律に関する相談受付等のコールセンター」事業を新設し、本市に熊本事務所として進出する予定です。

本市のオフィス系企業誘致としては初めての事例で、20人の新規雇用を計画しています。今川社長は「コールセンターの候補地を選定していた際に、熊本地震が発生しました。復興のため熊本(八代)に進出したいと決意しました」と話しました。

※操業開始は12月を予定しています。

**100歳おめでとうございます**



本田 リリさん  
(北の丸町)

大正5年9月26日生

佐賀県で11人きょうだいの長女として生まれ育ったリリさん。教員免許を取得後、結婚を機に八代へ移り住み、八代第一高校で教鞭をとっていました。趣味は手芸で、60歳頃まで刺繍などをして楽しみました。

長寿の秘訣は、「好き嫌いをせずに何でも食べる」と。



松本 シキさん  
(葭牟田町)

大正5年9月20日生

現在、施設で暮らしているシキさん。若い頃は福岡に出稼ぎに行き、建設業と農業に携わりました。人の特徴を覚えるのが得意で、よく施設職員にあだ名をつけて呼んでいるそうです。

コーヒーが好きで、1日3杯飲むというシキさんの長寿の秘訣は「お喋りをしてストレスを溜めないこと」。

**ダイヤモンド・プリンセス**  
八代港に初寄港



▲八代港に初寄港したダイヤモンド・プリンセス

世界三大クルーズ会社であるアメリカのプリンセス・クルーズ社所有の「ダイヤモンド・プリンセス」(総トン数11・5万トン、全長290m、乗客定員2706人)が、9月15日、八代港に初寄港しました。

入港セレモニーでは、同社のジャパンオフィスであるカーニバル・ジャパンの堀川悟代表取締役社長が、「観光地としての魅力にあふれた熊本の復興に少しでもお役にたてれば幸いです」と激励。セレモニー後は、松高幼稚園の園児ら市民約100人が船内見学を楽しみました。

また、同日の出港セレモニーでは、秀岳館高校の生徒による雅太鼓の演奏で、次の寄港先である横浜港への船出を華やかに見送りました。

### 一席は中島良一さん フォトコンテスト表彰式



▲一席「今年も、元気、陽気」

9月16日、「八代くま川祭りフォトコンテスト」の表彰式が市役所鏡支所で行われ、中村博生市長が入賞者に表彰状を授与しました。今年29人129作品の中から9作品が選ばれました。一席は中島良一さんの『今年も、元気、陽気』。夜のお祭りの雰囲気も出ており、笑顔と躍動感が溢れていて、構図バランスが良い点などが評価されました。

講評を行った熊本日新聞社の平岡義裕八代支社長は「参加している人の表情が良く、くま川祭りの楽しさを市内外に伝える写真がたくさん揃っていた」と話しました。

### 結婚50周年を記念 金婚夫婦表彰式



▲金婚を祝し、表彰状を授与

9月16日、市と熊本日新聞社の共催による「第58回八代市金婚夫婦表彰式」がやつしろハーモニホールで開催され、金婚を迎えた市内251組の夫婦が祝福を受けました。

これは、社会の発展と家族の幸せを願い、お互いに励まし、いたわり合いながら、平和で豊かな日本を築いてきた夫婦の結婚50周年を祝うものです。各地区代表6組の夫婦に表彰状が手渡された後、代表して坂本町の谷口安彦さん・絹代さん夫婦が「これからもお互いを思いやり、健康に気をつけながら明るく生活していきます」と謝辞を述べました。

### 種山石工・橋本勘五郎 TKUドラマ製作発表



▲関係者による制作発表

9月16日、東陽石匠館でTKUドラマ「絆を通した種山石工・橋本勘五郎」明日に架ける橋」の制作発表が行われました。

これは、市が県の補助を受けて実施する「種山石工の里交流事業」の中核事業で、テレビ熊本「郷土の偉人第24作」として制作されるものです。

橋本勘五郎は東陽町に生まれ、霊台橋や通潤橋などを建造。明治6年には明治政府に招かれ、東京では万世橋や浅草橋などの石橋を架け、日本一の石工集団である種山石工の名を全国に轟かせた郷土の偉人です。

※10月30日の午後4時5分からの放送です。

### 下水道の普及と適切な活用を目指して 下水道促進ポスターコンクール



▲市長賞を受賞した光永周平さん

9月22日、イオン八代ショッピングセンターで下水道の日「下水道促進ポスターコンクール」の表彰式が行われました。

これは、9月10日の下水道の日に合わせてポスターを募集し、作品を通じて下水道に対する理解と関心を深め、下水道の普及と適切な活用を促進するものです。

今年度は、市内の小・中・特別支援学校から101点の作品が応募。市長賞に選ばれた千丁中3年の光永周平さんは、「下水道を利用することで八代の自然や農作物を守ることができるといふ思いで描きました」と話しました。

### 全国ホープス卓球大会 女子団体3位 ヒゴ鏡卓球クラブ



▲報告に訪れた監督と選手ら

8月13日に東京体育館で「第34回全国ホープス卓球大会」が行われ、女子団体で3位になったヒゴ鏡卓球クラブ所属の小学生4人が、9月21日に市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に大会結果の報告をしました。

同クラブは、平成21年と同25年に準優勝しており、今回3年ぶりの3位入賞です。竹本泰彦監督は「選手たちがとても頑張ってくれた。目標は日本一なので、来年以降も頑張っていくたい」。文政小4年の中西由夢さんは「3位になれて嬉しかった。今後も練習をして、日本代表になれるように頑張ります」と目標を語りました。

### 準備よし！あなたを守る反射材 秋の全国交通安全運動出発式



▲市内各地へ一斉パトロールに出発

9月21日、ゆめタウン八代で「秋の全国交通安全運動出発式」が行われました。

これは、秋の全国交通安全運動に伴い、八代警察署と市をはじめ、関係機関などが一堂に集まることで、運動が効果的な取り組みとなるよう、広く市民に周知し、意識啓発を図ることを目的としています。

式典では、中村博生市長が「事故のない、安心安全な八代市を目指しましょう」とあいさつ。その後、白バイ・パトカー隊は市内各所へパトロールに出発し、関係団体は啓発グッズや反射材などの着用を呼びかけるチラシを配布しました。



### 緊急災害に活用して 防災向けプロパンガス発電機



▲受贈式に訪れた関係者ら

八代市プロパンガス協同組合から「防災向けプロパンガス発電機」が市に寄贈されることになり、9月28日、同組合員5人が市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に同発電機1台を寄贈しました。同組合からは4百目の寄贈となります。今回の発電機は、災害時における救護所の1つである市保健センターに設置し、災害発生時における迅速な応急対応に役立てます。はじめに、同協同組合の伊藤利昭理事が中村市長に目録を贈呈。中村市長からは感謝状が手渡されました。伊藤理事は「災害時に活用していただきたい」と語りました。

### 20年以上献血に貢献 献血功労団体表彰



▲表彰された代表者

9月28日、市役所鏡支所で献血功労団体に対する表彰伝達式が行われ、八代税務署に金色有功章、YKK AP九州製造所に日本赤十字社長感謝状が贈られました。金色有功章は、20年以上継続的に献血に協力あるいは献血の推進活動に功労のあった団体に対して、日本赤十字社長感謝状は、金色有功章受章後も10年以上継続的に功労のあった団体に対して授与されます。代表して同九州製造所の吉田洋喜安全衛生管理室長は「就業時間内での献血は、参加者の確保が難しいが、これからも協力したい」と語りました。

### 九月は日奈久で山頭火 山頭火ウォーク



▲種田山頭火に扮した実行委員を先頭に出発

9月25日、山頭火ウォークが開催され、子どもから大人まで市内外から180人が参加しました。これは「九月は日奈久で山頭火」のイベントの1つで、放浪の俳人・種田山頭火が八代から日奈久まで歩いたことにちなんで、毎年開催されているものです。「エイエイオー」という掛け声を合図に球磨川河川緑地を出発。山頭火のように俳句を作りながら、国指定名勝の水島を通り、ゴールの日奈久温泉神社まで約13kmの道のりを歩きました。今回で4回目の参加の松山マリコさんは、「景色を見ながら歩くことが楽しみ」と話しました。

### やつしろ全国花火を切手に オリジナルフレーム切手



▲表敬訪問した郵便局関係者ら

10月11日、日本郵便九州支社の藤田浩司熊本県本部長ら9人が市役所鏡支所を訪れ、「やつしろ全国花火競技大会オリジナルフレーム切手」と「ポスト募金」で集まった寄附金を中村博生市長に手渡しました。フレーム切手は、熊本地震の復興支援の1つとして作成されたもので、過去に行われた同大会フォトコンテストに入賞した写真10枚が1シートになっています。中村市長は「復旧復興に向かつて少しづつ前進している。ご厚意を無駄にしないように花火大会を成功させたい」と抱負を語りました。

### 八代から出雲・松江3日間の旅 飛鳥Ⅱ出港



▲秀岳館高校生徒による演舞と吹奏楽で見送り

10月8日、飛鳥Ⅱが八代港を発着とする出雲・松江3日間の旅に向け出港しました。これは、鶴屋百貨店が企画したチャータークルーズで、同日に行われた出港セレモニーには、鶴屋百貨店の久我彰登代表取締役社長や中村博生市長をはじめ多くの人が集まり、飛鳥Ⅱを見送りました。セレモニーでは、中村市長が「快適な船旅を楽しんでください。同百貨店の久我社社長は「この3日間は飛鳥Ⅱで満喫していただき、帰ってからも家族に話をしていただけるとありがたい」とあいさつし、出港を見送りました。

### 秋の新作を発表 ジビエ料理



▲ジビエ料理を試食する参加者

10月5日、さかもと温泉センタークレオンで「ジビエ料理秋の新作発表会」があり、地元自治協議会や観光関係者ら約20人が参加しました。これは、「くまもとジビエ料理フェア2016秋」の参加に伴い、同温泉センターのジビエ料理の資質向上と食堂の利用推進を図ることを目的としています。今回の新メニューは猪肉を使用した竹輪焼きや鹿のつみれ汁など7品や以前から提供している鹿の味噌煮などを試食しました。今後、参加者の意見を参考に改良したメニューを11月から提供する予定です。